

くすりのしおり

注射剤

2025 年 06 月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名:アルガトロバン HI 注 10mg/2mL「フソー」[脳血栓症急性期]

主成分:アルガトロバン水和物(Argatroban hydrate)

剤形:注射剤

シート記載など:



この薬の作用と効果について

血液の凝固に関与する酵素（トロンビン）を阻害することにより、血液を固まりにくくし、血管の中に血栓ができるのを防止します。

通常、発症後 48 時間以内の脳血栓症急性期[ラクネ（直径 15mm 以下の小梗塞）を除く]に伴う手足のまひ、うまく歩けない、立ち上がれないなどの症状改善に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。出血している（頭蓋内出血、出血性脳梗塞、血小板減少性紫斑病、血管障害による出血傾向、血友病その他の凝固障害、月経期間中、消化管出血、尿路出血、喀血、流産・分娩直後など性器出血を伴う妊産婦など）。脳塞栓またはそのおそれがある。意識障害を伴う大梗塞がある。出血の可能性がある（消化管潰瘍、大腸炎、細菌性の心内膜炎、脳出血を起こしたことがある、高血圧、糖尿病など）。肝臓が悪い。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（:医療担当者記入）
- ・通常、はじめの 2 日間は、24 時間かけて静脈内に持続点滴注射します。その後の 5 日間は 1 日朝夕 2 回、1 回 3 時間かけて静脈内に点滴注射します。
- ・具体的な使用期間については、担当の医師にご確認ください。

生活上の注意

- ・この薬を注射したときは、脳や血液の働きを検査します。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、凝固時間の延長、出血、血尿、貧血、皮疹、かゆみ、じんま疹、嘔吐、下痢、頭痛、手足の痛み、熱感などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・意識の消失、片側の手足が動かしくくなる、めまい[出血性脳梗塞]
- ・頭痛、嘔吐、血を吐く・便に血が混じる[脳出血、消化管出血]
- ・じんま疹、顔面蒼白（そうはく）、息苦しい[ショック、アナフィラキシー]
- ・体がだるい、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる[劇症肝炎、肝機能障害、黄疸]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

くすりのしおり

注射剤

2025 年 06 月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名:アルガトロバン HI 注 10mg/2mL「フソー」[慢性動脈閉塞症]

主成分:アルガトロバン水和物(Argatroban hydrate)

剤形:注射剤

シート記載など:



この薬の作用と効果について

血液の凝固に関与する酵素（トロンビン）を阻害することにより、血液を固まりにくくし、血管の中に血栓ができるのを防止します。

通常、慢性動脈閉塞症（バージャー病・閉塞性動脈硬化症）における手足の潰瘍や安静時の痛み、冷感の改善に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。出血している（頭蓋内出血、出血性脳梗塞、血小板減少性紫斑病、血管障害による出血傾向、血友病その他の凝固障害、月経期間中、消化管出血、尿路出血、喀血、流早産・分娩直後など性器出血を伴う妊産婦など）。脳塞栓またはそのおそれがある。意識障害を伴う大梗塞がある。出血の可能性がある（消化管潰瘍、大腸炎、細菌性の心内膜炎、脳出血を起こしたことがある、高血圧、糖尿病など）。肝臓が悪い。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（:医療担当者記入）
- ・通常、1 日 2 回、1 回 2～3 時間かけて静脈内に点滴注射します。
- ・症状をみながら使用期間を決めていきますが、4 週間以内をめどに使用します。

生活上の注意

- ・この薬を注射したときは、血液の働きを検査します。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、凝固時間の延長、出血、血尿、貧血、皮疹、かゆみ、じんま疹、嘔吐、下痢、頭痛、手足の痛み、熱感などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・頭痛、片側の手足が動かしくくなる、嘔吐、血を吐く・便に血が混じる [脳出血、消化管出血]
- ・じんま疹、顔面蒼白（そうはく）、息苦しい [ショック、アナフィラキシー]
- ・体がだるい、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる [劇症肝炎、肝機能障害、黄疸]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

くすりのしおり

注射剤

2025 年 06 月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名:アルガトロバン HI 注 10mg/2mL「フソー」[血液体外循環時の灌流血液の凝固防止（血液透析）]

主成分:アルガトロバン水和物(Argatroban hydrate)

剤形:注射剤

シート記載など:



この薬の作用と効果について

血液の凝固に関与する酵素（トロンビン）を阻害することにより、血液を固まりにくくし、血管の中に血栓ができるのを防止します。

通常、先天性アンチトロンビン III 欠乏患者、アンチトロンビン III 低下を伴う患者〔アンチトロンビン III が正常の 70%以下に低下し、かつ、ヘパリンナトリウム、ヘパリンカルシウムの使用では体外循環路内の凝血（残血）が改善しないと判断されたもの〕またはヘパリン起因性血小板減少症（HIT）II 型（ヘパリンの使用により、血小板減少と血管の中に血栓ができる症状を起こす疾患）の患者が血液透析を行うときに、回路内の血液凝固防止に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。出血している（頭蓋内出血、出血性脳梗塞、血小板減少性紫斑病、血管障害による出血傾向、血友病その他の凝固障害、月経期間中、消化管出血、尿路出血、喀血、流早産・分娩直後など性器出血を伴う妊産婦など）。脳塞栓またはそのおそれがある。意識障害を伴う大梗塞がある。出血の可能性がある（消化管潰瘍、大腸炎、細菌性の心内膜炎、脳出血を起こしたことがある、高血圧、糖尿病など）。肝臓が悪い。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（（
：医療担当者記入））
- ・通常、血液透析開始時に回路内に使用し、開始後も使用します。
- ・具体的な使用期間については、担当の医師にご確認ください。

生活上の注意

- ・この薬を注射したときは、血液の働きを検査します。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、凝固時間の延長、出血、血尿、貧血、皮疹、かゆみ、じんま疹、嘔吐、下痢、頭痛、手足の痛み、熱感などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・頭痛、片側の手足が動かしくくなる、嘔吐、血を吐く・便に血が混じる〔脳出血、消化管出血〕
- ・じんま疹、顔面蒼白（そうはく）、息苦しい〔ショック、アナフィラキシー〕
- ・体がだるい、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる〔劇症肝炎、肝機能障害、黄疸〕

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

くすりのしおり

注射剤

2025 年 06 月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名:アルガトロバン HI 注 10mg/2mL「フソー」[ヘパリン起因性血小板減少症 II 型（発症リスクのある場合を含む）における経皮的冠インターベンション施行時の血液の凝固防止]

主成分:アルガトロバン水和物(Argatroban hydrate)

剤形:注射剤

シート記載など:



この薬の作用と効果について

血液の凝固に関与する酵素（トロンビン）を阻害することにより、血液を固まりにくくし、血管の中に血栓ができるのを防止します。

通常、ヘパリン起因性血小板減少症（HIT）II 型（ヘパリンの使用により、血小板減少と血管の中に血栓ができる症状を起こす疾患）（発症リスクのある場合を含む）における、経皮的冠インターベンション（血管の中から冠動脈を拡張する手術）施行時の血液凝固防止に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。出血している（頭蓋内出血、出血性脳梗塞、血小板減少性紫斑病、血管障害による出血傾向、血友病その他の凝固障害、月経期間中、消化管出血、尿路出血、喀血、流産・分娩直後など性器出血を伴う妊産婦など）。脳塞栓またはそのおそれがある。意識障害を伴う大梗塞がある。出血の可能性がある（消化管潰瘍、大腸炎、細菌性の心内膜炎、脳出血を起こしたことがある、高血圧、糖尿病など）。肝臓が悪い。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（（:医療担当者記入）
- ・通常、静脈内に持続注射します。
- ・具体的な使用期間については、担当の医師にご確認ください。

生活上の注意

- ・この薬を注射したときは、血液の働きを検査します。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、凝固時間の延長、出血、血尿、貧血、皮疹、かゆみ、じんま疹、嘔吐、下痢、頭痛、手足の痛み、熱感などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・頭痛、片側の手足が動かしくくなる、嘔吐、血を吐く・便に血が混じる [脳出血、消化管出血]
- ・じんま疹、顔面蒼白（そうはく）、息苦しい [ショック、アナフィラキシー]
- ・体がだるい、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる [劇症肝炎、肝機能障害、黄疸]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

くすりのしおり

注射剤

2025 年 06 月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名:アルガトロバン HI 注 10mg/2mL「フソー」[ヘパリン起因性血小板減少症 II 型における血栓症の発症抑制]

主成分:アルガトロバン水和物(Argatroban hydrate)

剤形:注射剤

シート記載など:



この薬の作用と効果について

血液の凝固に関与する酵素（トロンビン）を阻害することにより、血液を固まりにくくし、血管の中に血栓ができるのを防止します。

通常、ヘパリン起因性血小板減少症（HIT）II 型（ヘパリンの使用により、血小板減少と血管の中に血栓ができる症状を起こす疾患）における、血栓症の発症抑制に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。出血している（頭蓋内出血、出血性脳梗塞、血小板減少性紫斑病、血管障害による出血傾向、血友病その他の凝固障害、月経期間中、消化管出血、尿路出血、喀血、流早産・分娩直後など性器出血を伴う妊産婦など）。脳塞栓またはそのおそれがある。意識障害を伴う大梗塞がある。出血の可能性がある（消化管潰瘍、大腸炎、細菌性の心内膜炎、脳出血を起こしたことがある、高血圧、糖尿病など）。肝臓が悪い。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（（ ）：医療担当者記入）
- ・通常、静脈内に持続点滴注射します。
- ・具体的な使用期間については、担当の医師にご確認ください。

生活上の注意

- ・この薬を注射したときは、血液の働きを検査します。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、凝固時間の延長、出血、血尿、貧血、皮疹、かゆみ、じんま疹、嘔吐、下痢、頭痛、手足の痛み、熱感などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・頭痛、片側の手足が動かしくくなる、嘔吐、血を吐く・便に血が混じる〔脳出血、消化管出血〕
- ・じんま疹、顔面蒼白（そうはく）、息苦しい〔ショック、アナフィラキシー〕
- ・体がだるい、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる〔劇症肝炎、肝機能障害、黄疸〕

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。